

「中国のいいところ」

豊岡中学校

二年

村松 むらまつ

直香 なおか

私の父は中国人です。私は小さいころから

「これだから中国はいいよ」や「それは日本人が

あかしのいいよ」など、些細な文化の違いから喧嘩

をする父と母を、たくさん見てきました。『

もう何を言っても無駄。どうせ他の国の文化

なんて理解できるわけがない』と結局いつも

分かり合えないまま終わる喧嘩。だから、ま

たすぐに喧嘩をして、また分かり合えないま

ま終わる。ずっとその繰り返しでした。小十

いころから、何回も何回も父と母の喧嘩を見

てきた私は、お互いの文化を理解しようとも

していかないのに、理解できないとあきらめて

いる父と母を、あぐく情けなく思いました。

私はそんな風になりたくない、そう強く思い

ました。けれど、そんな私も心から中国の二

とを理解しようとはしていません。た、という

事に最近気がつきました。いつも、父と母が

喧嘩するたびに『父が中国人じゃなければよ

かっただいそうべのどこかだと思つていた自分も、結局は父の国のことを理解しよう、分かってあげよう、とは思つていなかつたという事に、気がつきました。私が、その事に気がつけたのは、中国にいるいところのおかげでした。

中国のいところは言葉が通じないし、会話はできないけど、それ以上にジエスチャイや、絵、歌など、いつも一生涯懸命私を楽しませようとしてくれます。片言の日本語で「オオカ、アソボウ」など、必死に私に思いを伝え

ようとしてくれます。そんないところと一緒にいると、不思議と会話はしていなのに、言葉が伝わってくるような気がするのです。お互い、言葉は通じないのに、思いは伝わっている、そんな感じがしました。だから私は、いつも中国に行くのが楽しみです。いところにも会えるのが、とても楽しみです。けれど、いところは、私が本当に楽しんでくれているのだから、うか、とあごく不安そうにしている。直香はいつも笑ってくれるけど、直

香から話しかけてくれたり、直香の国のことを私に伝えようとはしてくれない。私と一緒にいても楽しくないのに、無理して笑ってくれているのかな。中国の文化ばかり押しつけてしまつて、本当に楽しんでくれているのかな。と泣きそうなお顔で父に相談していた。うです。私はそれを聞いて本当に驚きました。それと同時に、いつもいっつもいとこを頼つてばかりだったことを、後悔しました。私が話さなくても、いとこが楽しんでくれます、そんな私の身勝手な考えが、いとこを不安にさせていたことに、その時初めて気がつきました。た。いとこは、私のことを、日本のことを、必死で分かろうとして思いを一生懸命伝えようとしてくれるのに、私はいつも、それを受けとめるだけ、自分から思いを伝えようとはしていなかった、というところにその時初めて気がつきました。

理解しあう、ということは、相手のことを受けとめるだけ、自分から分かろうと

ある、自分から思いを伝えようとしなければ
いけない、ということをお私はいと二に教え
てもらいました。そして時には、文化の違いに
よって思いがずれ違ってしまうこともあるけ
れど、その時は、思いをぶつけあってお互い
が、相手の気持ちも理解しようとしなければ
いけないんだな、ということに気がつきまし
た。また、これは、国籍の違いとかに関係な
く、すべての人に言えることだと思えます。
お互いを分かり合う、ということはずが、相
手のことを知り、自分のことも分かってもら
おうと努力あることが大切で、それはたとえ
言葉が通いなくとも、一生懸命伝えようとす
れば、相手に思いは届く、ということを、私
はいと二から学びました。このことを、少し
でも多くの人にわかってもらい、少しでも多
くの人が、他の国の人と理解しあえるよう
になつてほしいと思えます。私も、父の国のこ
とを理解するため、努力していきたいと思
います。まず、今日父に会ったら、中国

てどの国と」と聞いてみたりです。いつか
父の国のことを理解できるとなると
そして、世界中みんなが、お互いを理解しあ
える時代がくることを、心から願ういまあ